

資料 4

オミクロン株への置き換わりによる支援状況の変化について

(各委員からの意見まとめ)

意見 1

学校現場では、これまでのコロナウイルス感染症対策の経験から、対策、対応に教職員の方々、保護者も慣れてきていると感じています。

しかし、オミクロン株の感染では、学級閉鎖や休業など、学校内での感染拡大が疑われることが発生しています。

オミクロン株について、様々な情報から、「感染しても軽症である」「インフルエンザのような扱い」「いつ誰が感染してもおかしくない」「子どもでも重症化する」「ステルスオミクロンの懸念」など、両極の考えがあるように、保護者の中にも、楽観と心配との両極の意見があるのではないかと考えられます。

子どものために、学校、児童クラブ、保育園の行事や活動の実施を望むことや、働く者として、保育等支援の継続を望むのと同時に、安全や安心を優先されることを望みますが、先生方、保育士さんや決断をされる方におかれましては、大変なご苦労ではないかと思えます。

一人の保護者としてまずは自分、子どもが感染し他のご家庭に迷惑を掛けないように、これまでどおり家庭内での対策や行動が必要があると考えています。

意見 2

オミクロン株に関連して本学（大学病院含む）の状況を簡単にご説明させていただきます。

次の状況により、医師、看護師、検査技師等の出勤が出来ず、大学病院の機能として患者様対応に影響があります。」

(具体的なケース)

- ・職員本人のコロナ陽性および濃厚接触者の発生による出勤停止。
- ・お子様がコロナ陽性および濃厚接触者となり出勤が出来ない。
- ・お子様の公共保育園等の休園対応に伴ない出勤が出来ない。
- ・本学内保育所（定員45名）にて、休園対応に伴ない出勤が出来ない。

意見 3

コロナ過が始まって約2年が経ち、それまで以上の手洗いうがいの徹底・適切な換気、そしてマスクの着用・給食時は定期的な消毒を心掛けてきました。

また行事では参加人数の制限、発表会に関してはクラス別になるように時間をずらしての発表、マウスシールドの着用（年中・年長のみ）など完ぺきとは言えませが対策を行っての保育を行っています。

議題のようにオミクロン株へ置き換わり何か変化したかと言われると、特に変化はしておりません。正直なところ、これ以上対策をしようがないからです。ただオミクロン株により、ありがたいことに第5波までは園児または園の関係者に感染者が発生しなかったこともあり、今までのように感染させないようにする考えから、感染してもそこから感染を拡大させないようにと考えが変わり、身近になってしまったのも事実です。

中止にしてしまった行事・保育内容も多々あり、子ども達そして保護者の方々、そして何より教職員に不自由を強いることが多くあることに、悔しい思いが募るばかりです。

意見 4

小学6年生と2年生の子どもを育てる母の立場から普段感じていることです。

①コロナ生活も3年目に入り、子どもたちはマスク生活や黙食、数々のイベントの中止、学校での部活やコミュニケーション活動の制限にうんざりしていました。それでもこの状況を受け入れて大人の言うことを聞いて真面目に従ってきたと思います。そんな中で次はオミクロン株の蔓延…今度は子どもの感染が多いというので、子ども自身も不安に感じてますが、学校では先生が全ての面でピリピリしてて、検温やうがい手洗いも厳しくなり、まるで脅されているようにも感じているそうです。先生方がいつも愛情深く子ども達に接してくれているのはわかっていますが、息苦しそうにしてる子ども達もかわいそうに思います。

②11才以下の子どもへのワクチン接種がはじまります。我が家でも下の子に早めに接種してもらいたいと考えていますが、副反応、副作用などアメリカでのデータ等のでいいので詳しく事前に知りたいです。娘が12才になってクーポンが届いてすぐワクチン接種しましたが、翌日の夕方立ち上がれないほどの全身の痛みや発熱があり病院に連れて行くべきか心配しました。

意見 5

例年行っているイベントや保護者会の仕事は、日程やSNSを活用などして、次の通り全て実施できています。

- ・休園により、観劇会の延期
- ・次年度保護者会役員選出あみだくじを手書きからオンラインに変更して実施。
- ・定例会はグループLINEで実施
- ・卒園、進級お祝い品の手配は電話、電話メール、LINEを使い「園長先生⇔委員⇔保護者会メンバー」のやりとりで疑問点等を解消しながら実施
- ・新役員への引継ぎ会は、現役員の参加人数を減らして実施予定（全員参加から各役から代表1名参加）

保護者として感じている疑問としては、次のとおりです。

- ・長久手市や6園の会議は面談が前提で、園とのやりとりも電話であることから、Web会議や電子メールでのやりとりが可能になるとよいです。
- ・保護者会の集金、立替えの精算は「現金」のため、入出金や記帳の負担を減らすため、ネットバンキングへ変更できるとよいです。

いずれもコロナ禍がきっかけで感じた問題ですが、IT化・デジタル化は、ぜひ進めていただきたいです。

仕事、保護者会、子育てのすべてを担うことはとても負担が大きく、リスクが伴うことは承知してますが「効率化」はアフターコロナ時代になっても課題だと思います。

意見 6

社会福祉協議会ではこども食堂など、飲食を伴う支援が実施できないことから、代替の取り組みとして主に困窮世帯を対象とした「こども弁当の配布」や「フードパントリー」として実施した。

(1) 企業からの直接基部によるもの

こども弁当の配布 12月下旬から1月中旬 延べ3日 26世帯

(2) 協働募金・食品等の寄付によるもの

ささえあいパントリー事業 12月上旬から1月中旬のべ4日150世帯

また、サロン等の取り組みでは親子の健康体操など、共生ステーション等で実施している屋内での企画は屋外でもできる「ウォーキング」企画などに変更して開催中である。

コロナ感染症による影響が長期化することで各家庭において貧困につながることはないよう、支援のあり方を考える必要があると感じる。

意見 7

新型コロナウイルス感染が発生した当初からウイルスを持ち込まないと言う心構えで活動していますのでオミクロン株に置き換わったからと言って、活動が変わったと言う事はあまり感じません。但し、活動自体はコロナ以前と比べるとかなり少なくなりました。

子どもと触れ合う事が出来ないのが残念です。遠くから見守るだけです。それもご父兄の気持ちを考えると仕方のないことと考えます。

保育園、学校他子ども関連施設への出入りは最小限にしています。新型コロナウイルス感染数が落ち着いている時期を見越し、先生、職員の方と連絡を取り合い訪問は続けています。

その中、気になることは小さなことでも電話連絡後、直接お会いして話をさせていただいています。

コロナ過、出来るだけ関係機関との連携を取るようにはしていますが各会議が中止となり得られる情報が少なくなっています。実際に保育園のご父兄と情報交換する機会を園長先生のご配慮でいただいた時には対面でお話出来喜びのご意見を頂きました。

まだまだこの状態を続けなければならないでしょうが、感染対策を取りながら少しでも前へ進むことが出来ることを念じています。

意見 8

長久手市内のオミクロン株の感染者数も日に日に増加が見られております。現に長久手市内の保育園、幼稚園、小学校、中学校等の感染者数も増加し、休園や学校閉鎖等もあります。

その中において、この2年間はコロナ禍により、主な行事等も縮小や取り止めをせざるを得ない状況が続いております。

子ども会においても、小学生や幼児の感染者も増加している状況もあり、「3密の回避」、「マスク着用」、「手洗い」、「こまめな換気」を注意しながらの状態を維持して活動となっております。特に子ども達の感染者数が今まで以上に増加しているため早期の予防接種が望まれています。

会議や打ち合わせも「5つの小」＝少人数、小一時間、小声、小皿、こまめな換気に注意し、人と人との距離を保ち飛沫をさける工夫をしております。たとえば、資料配布の回数を増やすことにより、コミュニケーションを図る等。

それらを含め、「今までみたいに行事等が行えない状況の中で、子ども会活動がどうすれば継続的にできるのか？」と模索している現状であり、早く、子ども達の笑顔が見える子ども会活動が出来るといいですね。

意見 9

子どもの通わせている保育園でも陽性者が出たため自粛登園という形での預かりになっています。わたしは日中仕事をしているため通常通り預かっていたのですが、育休中のお母さんの世帯は自粛して家で子どもを見ているという状況が続いています。

もちろん感染する可能性があるため、預けるのが不安という声もあるかと思いますが、家で毎日、まだ保育園に通えない小さな子どもを抱えながら子どもたちの相手をするのは親にとっても子どもにとってもストレスがかかるのではないかと感じています。

今後の環境にどう変化がでてくるのか、予測がつかない事ではありますが、少しでも早く通常の預かり環境に戻して欲しいと感じています。

意見 10

先ず最初に問題なのは、重症化しやすいという高齢者への優先接種を進めた一方、子どもたちは後回しで本当に適切だったのだろうか？という点である。

・全国の新規感染者数は幾度か増加が続いたが、最近では加速度の鈍化傾向が続いている。新規感染者の年代別の割合では20代が減少する一方、10歳未満や60代以上で増加しているようだ。「まん延防止等重点措置」が適用されている都道府県のうち、地方を中心に新規感染者数は減少傾向あるいは上げ止まりとなり、低下傾向で増加速度の鈍化が継続している。しかし、全国で新規感染者数の増加速度は鈍化しているが、療養者数、重症者数及び死亡者数の増加が継続している。

・首都圏や関西圏ではほぼオミクロン株に置き換わっており、中部圏もこれに追随すると推測できる。

・学校・幼稚園・保育所などでは、新型コロナウイルス感染陽性者や濃厚接触者が多くの地域で増加している。自治体による教職員や保育士などに対する積極的なワクチンの接種促進が必要である。また、分散登校やリモート授業などの組み合わせによる教育機会の確保や社会機能維持にも配慮する必要がある。

・行政・事業者・市民には、オミクロン株においても基本的な感染防止策は有効であることから、不織布マスクの正しい着用、手指衛生、換気などの徹底を継続していくことが必要である。また、三つの密(密集、密閉、密接)が重なるところは最も感染リスクが高いが、オミクロン株は伝播力が高いため、一つの密であってもできるだけ避けることが必要であろう。さらに、重症化予防・発症予防の観点からは、ワクチンの「追加接種」を受けることが効果的であると考える。

学校等での対応

・学校においては、今後も引き続き健康観察の徹底（体調不良の際は登校させない）、手指消毒・換気・マスク着用、オンライン学習の活用、食事中の会話禁止（黙食）など感染防止対策を徹底することで、教育活動の継続が可能となろう。特に、授業、クラブ・部活動など集団行動における感染防止対策の徹底が重要となる。加えて家庭においても、規則正しい生活習慣の徹底（体調不良の際は登校しない・させない）、不要不急の外出を避け可能な限り速やかな帰宅、生徒のみの会食等の自粛等の対応を徹底して欲しい。